

千葉県

研究協力校（課程又は障害種）

- ・千葉県立君津特別支援学校（知的・病弱）
- ・千葉県立夷隅特別支援学校（知的）

研究の成果

観点Ⅰ：

各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

Ⅰ. 研究の目的

千葉県立夷隅特別支援学校は、実践研究を行うにあたり、初年度の平成 29 年度は、キャリア教育に係わる各教科間の関連性や、校内における各学部間のつながり、家庭・地域や産業現場との連携の在り方などについて検討し、小学部段階から連続したキャリア教育を推進するための教育課程の編成や指導方法等を明らかにすることを目的とした。2 年目の平成 30 年度では、教員がキャリア教育の視点を共通理解し、キャリア教育の視点に基づいた学習内容を校務分掌の学習指導部を中心に整理し、学校生活全体を通して実践した。また、キャリア発達の視点を踏まえた指導内容や教育課程の編成について実践、整理し、事例集としてまとめることを目的とした。

平成 30 年度の夷隅特別支援学校は、「キャリアの視点に立った学校生活づくり」に焦点を当て、「なぜ・なんのために」「何を」「どのように」の視点で学習活動を計画したり、見直したりすることで学習活動の充実をはかるとともに、児童生徒のキャリア発達、教員のキャリア発達を目指す取組を行った。

千葉県立君津特別支援学校は、知的障害のある児童生徒の各教科等を合わせた指導において、学習の内容・方法・評価について、単元記録表、評価表を用いて整理。単元記録表で、各教科等を合わせた指導における各教科等の関連を明らかにし、評価表で評価の 3 観点を基に実態把握も含めて評価し、これらを活用しながら授業改善をはかった。さらに、児童生徒の質の高い学びに向け、単元記録表と評価表がどのように関連し、活かされたかを検証した。

観点 2 :

教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

2. 単元記録表・評価表の実践

君津特別支援学校は、新学習指導要領をふまえ、各教科等を合わせた指導の単元ごとに各教科等のどのような内容が含まれ、どのような力が身についたか分析するため単元記録表と評価表を用いている。

各教科等を合わせた指導の単元記録表に、3観点からの目標設定、各教科等の内容の書き出しを全教員で行い、学習環境を整えたり、教材・教具を開発・活用したりした授業の実践を記録した。各教科等を合わせた指導の評価表を作成し、児童生徒の実態把握、変容を記録し、評価を行った。

単元記録表に実践を記録(児童生徒の学習活動を記述)し、関連する各教科等を新学習指導要領の目標・内容から書き出した(資料1)。新学習指導要領で示された各教科等の目標や内容がどう関連しているか教員で話し合いながら、書き出していくことは、目標の見直し、活動内容の見直し、各教科等を意識した児童生徒への関わりや手立ての工夫につながった。教員で話し合う機会が、目標や活動内容の共通理解を促し、明確な目標をもって児童生徒の支援をすることができた。

学校教育目標 めざす児童生徒像	子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校 夢や目的をかなえようとする子 思いやりのある心豊かな子 健康で元気に行動する子 すすんで学び、考え、表現する子		
みどりグループ	小学部	中学部	高等部
①健康な体と豊かな心を育てる。 ②人とのかわりを通して、自分の思いや意思を伝える力を育てる。 ③学校生活を通して様々な経験を、学ぶ楽しさと意欲を育てる。	①人やものとのかわり育てる。 ②豊かな心と健康な体を育てる。 ③学習や身のまわりのことを意欲的に行う力を育てる。	①人とかわかる力をつけ、集団の中で活動する楽しさを感じられるようにする。 ②心の安定を図り、心身ともに健康で調和のとれた発達をめざす。 ③目標に向かい、考えて行動する力を伸ばしながら、身辺自立や働く力を育てる。	①卒業後の生活を意識し、主体的に学び自分の生き方を自分で決定できる態度を育てる。 ②生活する力や働く力を身につけ、自立と積極的な社会参加への意欲を高める。 ③健康な心と身体づくりをめざし、心身ともに充実した生活を送る。 ④集団生活をとおして、好ましい人間関係や豊かな心を育てる。

年間目標	・クラフト班の作業工程や自分の仕事に分かり、より質の高い製品作りを行うことができる(知識及び技能) ・製品作りや販売会を通して、「丁寧な言葉遣いでの挨拶や報告、接客の仕方を学ぶことができる。(思考力・判断力・表現力等) ・製品作りや販売会を友達と協力して取り組み、自分たちの作った製品が売れる喜びや、仕事のやりがいを経験することができる。(学びに向かう力・人間性等)
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

単元名	「人気クラフト」のお店を出そう!	
単元目標	・自分の仕事を覚え、見通しをもって製品作りに取り組むことができる。(知・技) ・丁寧な言葉遣いでの挨拶や報告、接客の仕方をすることができる。(思・判・表等) ・販売や接客の活動を通して、挨拶やお客さんのやりとりの仕方をすることができる。(学・人等)	
月	主な活動内容	関連する各教科等
	<p><作業始めの会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンを見ながら話を聞く。 ・自分の活動場所に移動する。 ・目標を決める。 ・店名を決める。 	<p>(始めの会)</p> <p>職・家1-Aア働くことの意義 (ア)</p> <p>自立活動 (心理的な安定) (2)</p> <p>国語 3-A イ聞くこと・話すこと</p> <p>小:生活3 オ 人との関わり</p> <p>道徳小中C 集団生活の充実</p> <p>道徳小中C 集団や社会</p> <p>数量の基礎 A-1・A-3 数と計算 (ア)◎ B-3 (ア)</p>
	<p>[かごグループ]</p> <p><身支度・準備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を洗う。 	<p>(身支度・準備)</p> <p>自立活動 (身体の動き) (B)</p>

資料1 単元記録表の実践例

各学部で児童生徒の実態や児童生徒につけたい力を教員間で確認し、評価表を作成した(資料2)。小・中・高等部の評価表は、チェック項目が明確になることで目指す姿をイメージしやすく、複数の教員目で評価をすることができた。重複障害学級は、一人ひとりの実績に応じた評価基準を作成し、記述欄を設けたことで、様子や変容を記録することができた。チェック項目で児童生徒の実態把握を行うことにより、学習環境を整えられ、手立てを工夫した授業作りを行うことができた。また、変容を記述したり、チェック項目を確認したりすることで、必要な支援に気づき、手立てを考え直すこともでき、これにより改善をはかりながら単元を進め、次単元に生かすことができた。

担当する作業	作業内容(手順、使用する道具等、具体的に)	おゆみの目標(後掲)	単元目標	
・クラフトテープの切開	・クラフトテープを決まった長さにスライドカッターで切開する。 ・切開したクラフトテープを決められた数で数えて分類する。	・1人で様々な長さのクラフトテープを切開、分類して目標の本数を仕上げる。	・テープをきれいかつ正確に切ることができる。 ・仕事のやりごとに自分から報告することができる。 ・作った材料や次の工程の準備に手際を付けて進めることができる。	
チェック項目	内容	記述事項	指導の経過と変容(評価) 作成日(H30.10.11)	
知識・技能	身じたく 必要に応じて(作業着の着用等)を整えることができる。	生徒の様子 作成日(H30.9.5)	経過と変容の記述欄 (担当以外も記入可)	
手技の動き	道具・道具の使用 作業機器や道具類を安全に使用することができる。	・座った姿勢でスライドカッターを使ってクラフトテープを切っていたため力が入らないことが時折あった。		・スライドカッターの裏に滑り止めをつけて力が入りやすいようにする。 ・スライドカッターに長さの印をつけて直感的に分かりやすく示すようにする。 (教師による支援度・A)
	手指の動き 平や指先を使う作業ができる。	・切ったクラフトテープを1から10までを1の箱に自分で数えながら分類バサミで		・スライドカッターに滑り止めをつけることによって力が充分に入るようになり、きれいにクラフトテープを切開することができた。スライドカッターに長さの印をつけることにより印を見ながら長さを覚えて切ることができた。
組立運動	平や指先を使う作業ができる。	・切ったクラフトテープを1から10までを1の箱に自分で数えながら分類バサミで		・スライドカッターに滑り止めをつけることによって力が充分に入るようになり、きれいにクラフトテープを切開することができた。スライドカッターに長さの印をつけることにより印を見ながら長さを覚えて切ることができた。
正確性	平や指先を使う作業ができる。	・切ったクラフトテープを1から10までを1の箱に自分で数えながら分類バサミで		・スライドカッターに滑り止めをつけることによって力が充分に入るようになり、きれいにクラフトテープを切開することができた。スライドカッターに長さの印をつけることにより印を見ながら長さを覚えて切ることができた。
思考・判断・表現	自分の意思(休憩、帰った時、手垢の依頼)を教師や班員に伝えることができる。	・切ったクラフトテープを次の工程の生徒へ手渡すときに声が小さいことがあり、伝わらないときがあった。	・授業の初めに作業の活動の流れについて1つ1つの工程をホワイトボードで確認し、クラフトテープの長さや本数を示すようにする。 (教師による支援度・A) ・次の工程の生徒にクラフトテープを手渡すときに「できました。お願いします。」と伝えることや声の大きさは教師が手本で示すようにする。 (教師による支援度・A)	

教師による支援度
A: 視覚的・聴覚的支援
B: 手本による支援(モデリング)
C: 教師と一緒に(身体的介助)

資料2 評価表票 中学部版アセスメントシート

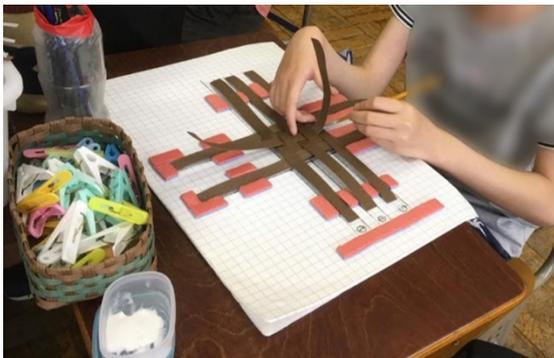
観点 3：

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. 作業学習における個人出来高表

君津特別支援学校は、中学部における作業学習の単元の振り返り時に、振り返りシートの全体出来高表と個人出来高表の両方を用意している。

作業学習でクラフトテープのかごを作成する際に、生徒が作成する製品数を意識できるように出来高表を用いた。個人の出来高表を取り入れることによって、毎日自分が切ったクラフトテープの本数が明確になり、意欲的に取り組むことができた。また、出来高表を取り入れ、終わりの会で教師や友だちから称賛されることにより、次時の活動への意欲につながった。個人出来高表を活用するようになってからどの生徒も自分の目標数に向けて集中して取り組むことができるようになっている（資料3）。



クラフト班 ^{ほん}できだかひょう ^{なまえ} _____
^{たんとう}担当のお仕事 ^{しごと}〈 _____ 〉

が 月	に 日	が 月	に 日	が 月	に 日	が 月	に 日
もくひょう		もくひょう		もくひょう		もくひょう	
つくったかず		つくったかず		つくったかず		つくったかず	
あいさつ		あいさつ		あいさつ		あいさつ	
ほうこく		ほうこく		ほうこく		ほうこく	
							^{ごうけい} 合計

資料3 クラフトテープのかごを作成する作業学習の様子

観点 4：

障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

4. 地域協働に向けての取組、予定

夷隅特別支援学校は、キャリア教育に関して、小・中・高等部を通じてのキャリア教育年間計画を立て、特に清掃活動に関して各学部で清掃検定を実施している。また、近隣の学校と学校間交流や居住地校交流、近隣にあるいすみ鉄道の駅周辺の清掃や美化活動など、地域と連携した学習活動にも積極的に取り組んでいる。いすみ市の土着菌完熟堆肥を活用した有機農業を推進する酒米プロジェクトへの参加では、田植え、稲刈り、酒米作りと年間を通じた体験的な活動の中で地域の産業を知る機会となった（資料4）。自分で疑問や課題を見つけ地域の方に積極的に質問する生徒や、働く人の姿に憧れを抱く生徒など、地域と関わる中で、「やってみたい」「次はこうしたい」といった思いが生まれ、主体的な姿へとつながった。令和元年度からは地域協働に向けての取組を行う予定であり、キャリア発達を支援するため、学校の学びを地域で生かすことで学びのつながりや卒業後を見据えた学びを行う。また、進路研修等を行うことによっても卒業後を見据えた学びについて考える予定である。

夷隅特別支援学校の児童生徒によって居住地校交流を行っており、小学部では夷隅小学校、中学部では国吉中学校、高等部では大原高校との学校間交流を行っている。また、令和元年度には中学部と高等部が国際武道大学と駅伝交流を行う予定である。



資料4 地域との交流様子

観点 5 :

多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

5. 外部講師による評価

君津特別支援学校は、他県の大学や特別支援学校など、外部から講師を招いて全体研修会や授業研究会を行っている。そこでは、各教科等を合わせた指導の授業づくりや授業の評価、内容についての指導等が行われた。また、教育課程研究協議会でも外部から講師を招き、2年次にあたる平成30年度の研究の取組状況による成果と課題の評価を行った。

各教科等を合わせた指導において、各教科等の内容を意識した授業や評価につながってきていることが確認された。今後は、単元記録表、評価表を活用することでどのような力をつけたいのかという視点から、関連する各教科等の内容を精選すると共に、授業においては主体的な学びにつながる振り返りを大事にすることを確認した。

観点 6 :

新学習指導要領に対応した特色ある取組

6. 教員のキャリア発達

夷隅特別支援学校は、教員のキャリア発達について校長を講師として研修会を実施している。「基礎的・汎用的能力」を教員自身の取組内容に当てはめて考えたことで、キャリア教育への理解が深まっている。職員を対象にアンケート調査を実施しており、教員の児童生徒への向き合い方や考え方が変容し、キャリア発達が促された結果が得られた。

また、教員の研修は希望研修から全体研修へとになっており、職員の意識の変化が見られている。職員たちでKJ法やグループディスカッションなどを行い、児童生徒だけでなく職員間でも授業づくりに関して主体的・対話的に学んでいった。